

令和5年度 西東京市立田無第四中学校 関係者評価表（第1回）

学校の教育目標						
私たちは、憲法と教育基本法の精神にのっとり、平和で民主的な明日の日本を背負う人間の育成を目指して次の目標を定める。 ○すすんで学び、しっかりした学力をつけよう。（「問題解決力」の育成） ○友達を大切にし、仲間の輪をひろげよう。（「人間関係形成力」の育成） ○丈夫な体をつくり、豊かな情操を身につけよう。（「実践力」の育成） ○目標を決め、深く考えて、最後までやりぬこう。（「深く学ぶ力」の育成）						
1 目指す田無四中の姿		(1) 温かく活気に溢れる学校		(2) 生徒、教職員の個性を生かす学校		
2 目指す四中生の姿		(1) 自ら学び、自らを治める生徒		(2) 自己実現に向けて挑戦し、やりぬく生徒		
3 目指す 教職員の姿		(1) 生徒に寄り添い、挑戦を支援する教職員		(2) 自ら学び、生徒と共に歩む教職員		
	具体的方策	学校自己評価		学校の取り組みおよび改善策	学校関係者評価	学校関係者評価記入欄
		取組指標	成果指標			
確かな学力の向上	ユニバーサルデザインを取り入れた授業を実施するとともに、ねらいを明確にし、問いや学習活動を工夫して、分かりやすい授業に取り組む。	4	4	教室正面の掲示物を減らして集中力を高め、プレゼンテーションソフトや板書を利用して本時の目標を明確化している。今後は活動内容やその活動目安時間を提示するなどの更なる手立てを教職員間で共有し、一層分かりやすい授業づくりを目指す。	A	自己評価は適切である。
	I C T機器、デジタル教科書（英数）を活用した授業改善と教材開発に取り組む。	4	4	学級活動や道徳、総合的な学習の時間では開発したデジタル教材等を共有ドライブで共有し、効果的な実践を広く普及する取り組みを行っている。今後、他の教科でも実践していく取り組みを通してICT機器を活用した授業改善を行っていく。	A	自己評価は適切である。 校外学習でもタブレットを積極的に活用してほしい。
	授業で、考える、話し合う、タブレットを活用して視覚化する、発表するなどの活動に取り組む。	4	4	GIGAタブレットを用いた、スレッドシートやスライドの共有を通して効果的な意見交換と話し合い活動が実践できている。また、2学年総合的な学習の時間では校外学習にタブレットを活用した事前調査とHPの作成、そして紹介を通した事後学習を行っている。今後取り組みを全校に広げていく。	A	自己評価は適切である。
豊かな心の育成	「自治」を意識した行事や生徒会活動・部活動・奉仕活動などの諸活動を通して、学級、学年、学校、地域への所属感や自己有用感を育てる。	4	4	生徒会役員主導でGIGAタブレットを使用し、全校への配信や、小学校との交流に生かす取り組みを実施している。学年集団でも生徒が主役となり行事や集会を行う取り組みを増やせている。	A	自己評価は適切である。 工夫は必要だが、小学生と対面で活動ができるとよい。
	体験活動等を通し、職業観、勤労観とともに、集団の中の個の役割について学ばせる。	3	4	1年で職業調べを行い、発表することで内容を共有する。また、2年でオンライン職場体験を実施することで、インタビューの仕方や様々な企業の様子を知り、職業観、勤労観を深めていく。	A	自己評価は適切である。
	特別の教科 道徳を中心に、人権や命の大切さについて考え、議論させ、学ばせるとともに、生命あるものは互いに支え合って生きていることについて理解を深めさせる。	4	4	道徳の教科化に伴い、すべての内容項目を網羅した計画的な授業の実践を、教員ローテーションで行い、生徒の心を掴める優れた教材の発掘を目指し、授業研究を進める。	A	自己評価は適切である。 日々の道徳の授業の質を高めてほしい。
個に応じた指導	積極的にあいさつを交わす、時間を守る、身だしなみに気をつける等の大切さを理解させ、よりよい生活習慣を身につけ、3年間を通して生徒が将来の進路について考え、自ら切り拓いていく力を育てる。	4	4	田無四中の五つの柱である「あいさつ」「時間」「身なり」「清掃」「集会」を年度当初に示し、節目ごとに生徒にその大切さや意味を伝える取り組みを行っている。特に生徒会役員が主体となって行う「あいさつ運動」はGIGAタブレットを使用した取り組みを増やししながら、日々工夫した取り組みが行われている。	A	自己評価は適切である。 あいさつ運動を継続してほしい。
	西東京あったか先生として様々な場面で生徒に寄り添い、教育相談活動を充実させ、生徒の心の支援に取り組む。（いじめの未然防止と早期発見に努める。）	4	4	年度当初や夏休み直後などの時期をとらえて、ふれあい週間や相談週を年3回、保護者も交えた三者面談を年2回行っている。職員の研修も重ね、言葉遣いにも響きを配りながら生徒との信頼関係作りを目指し、いじめに対しても迅速な対応を目指す。	A	自己評価は適切である。 不登校生徒への丁寧な対応をお願いしたい。
地域との連携	保護者との連絡は適切に行い、連携を深めながら生徒の育成を図る。	3	3	部活動としてボランティア部が開設され、校内を代表してボランティアを行うとともに、各学年においても地域清掃や校内清掃を年1回行っている。全校にも積極的なボランティアへの参加を呼びかけている。	A	自己評価は適切である。 タブレットを活用した欠席連絡システムを確実に運用できるようにする。
	学校公開や学校HP・各種たより・メール配信・奉仕活動等を通して、教育内容や取組について積極的に発信するとともに、地域との連携を深める。	2	4	各種便り、HPの活用により学校の様子をタイムリーに情報発信している。一斉メールの活用により行事の開催等の情報発信も継続していく。	A	自己評価は適切である。

A：自己評価は適切である。 B：自己評価は適切ではない。 C：評価のための資料が不足している。 D：評価は不可能である。

業務改善	週当たりの在校時間が60時間を超えない。	3	教職員30人、4月から8月まで週当たりの在校時間が60時間を超えなかった割合は76.7%。 60時間を超えた教員は、初任者や若手教員、他地区からの異動者、分掌・学年・委員会主担当でる。超えた月の6月は、運動会や説明会の準備、期末考査による残業が要因と考えられる。9月から朝の欠席等の連絡方法を試行的にオンラインで実施し、欠席等の確認業務の軽減を図る。
------	----------------------	---	--